

第1次実施計画（H21～H26）の取組み評価

5つの方向性から見た評価と課題
 ～「増やす」「広める」に対する数値目標を設定し取組んだ6年間～

区分	5つの方向性	主な施策	評価（H21→H26）	◎プラス評価	課題																							
				●マイナス評価																								
増やす	創出 公園・緑地を生み出します	○公園・緑地の整備	◎公園を週1回以上利用する市民の割合が上昇（15%→20%） ● 目標未達成「一人あたり公園面積：10.6㎡→11.9㎡（目標12.8㎡）」 主要因：整備期間の延伸、計画面積の縮小、高い目標設定等 ※条例に規定する市民一人あたり都市公園面積の標準10.0㎡は達成（8.6㎡→10.0㎡） ●まちなかの公園・緑地が増えていない（市街地の一人あたり公園面積：3.4㎡→3.5㎡）	表：一人あたり公園面積 <table border="1"> <thead> <tr> <th>公園種別</th> <th>区域</th> <th>H21当初</th> <th>H26末</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">全ての公園</td> <td>全体</td> <td>10.6㎡/人</td> <td>11.9㎡/人</td> <td>1.3㎡/人</td> </tr> <tr> <td>市街地</td> <td>3.4㎡/人</td> <td>3.5㎡/人</td> <td>0.1㎡/人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">都市公園</td> <td>全体</td> <td>8.6㎡/人</td> <td>10.0㎡/人</td> <td>1.4㎡/人</td> </tr> <tr> <td>市街地</td> <td>3.3㎡/人</td> <td>3.4㎡/人</td> <td>0.1㎡/人</td> </tr> </tbody> </table>	公園種別	区域	H21当初	H26末	増減	全ての公園	全体	10.6㎡/人	11.9㎡/人	1.3㎡/人	市街地	3.4㎡/人	3.5㎡/人	0.1㎡/人	都市公園	全体	8.6㎡/人	10.0㎡/人	1.4㎡/人	市街地	3.3㎡/人	3.4㎡/人	0.1㎡/人	○まちなかの公園・緑地の整備が必要だが、新たな用地確保が困難（条例に規定する市街地の住民一人あたり都市公園面積の標準：5.0㎡）
	公園種別	区域	H21当初	H26末	増減																							
	全ての公園	全体	10.6㎡/人	11.9㎡/人	1.3㎡/人																							
		市街地	3.4㎡/人	3.5㎡/人	0.1㎡/人																							
都市公園	全体	8.6㎡/人	10.0㎡/人	1.4㎡/人																								
	市街地	3.3㎡/人	3.4㎡/人	0.1㎡/人																								
推進 みどりあふれるまちを演出するとともに、防災や環境保全機能を強化します	《演出》 ○都市緑化の推進（フラワーロード整備事業、ウェルカムフラワー事業など）	◎まちなかを中心に緑花設置箇所、設置数を拡充（フラワーロード実施延長：5.9km→15.4kmなど） ●まちなかの緑の量に対する市民満足度が減少（まちなかにおける緑の量に満足：38%→26%）	○市民満足度向上につながる効果的・効率的な緑花の設置について検討が必要																									
	《防災機能の強化》 ○公園・緑地の整備	◎避難場所や防災拠点となり得る公園が増加（避難場所の指定要件を満たす公園：248公園→272公園 781.7ha→872.5ha）	○避難場所指定公園における更なる防災機能の強化が必要																									
	《環境保全機能の強化》 ○公共施設緑化の推進（公共施設緑化ガイドラインなど） ○民有地緑化の推進（生垣設置奨励助成事業、緑地協定など）	◎公共施設緑化ガイドラインの策定などにより公共施設の緑化率が向上（緑化基準を満足した公共施設の割合：50%→60%） ●緑化助成制度を知らない人が多い（緑化助成制度を知らない：79%→83%）	○更なる公共施設の緑化率向上が必要 ○緑化助成制度の周知及び民有地緑化の推進が必要																									
守る	保全 「今あるみどり」を残します	○貴重な樹木の保全（保存樹指定事業など） ○病害虫防除対策（松くい虫防除対策事業、アメリカシロヒトリ防除対策事業など）	◎松くい虫被害の拡大に対し、防除対策や注意喚起を強化（予防薬剤樹幹注入本数：323本/年→平均1,536本/年） ●保存樹指定樹木の減少（保存樹指定件数：292件→288件） ●松くい虫被害木が増加（被害木の処理本数：530本/年→平均1,087本/年）	○公園の松への更なる対策強化、民有地の松への新たな対策検討が必要																								
	維持管理 良好なみどりの環境を手入れし、公園・緑地の安全を確保します。	○公園施設の更新及び長寿命化 ○市民協働による公園管理（公園愛護会、公園里親制度など）	◎公園のバリアフリー化率が向上（トイレのバリアフリー化率：30%→48%） ◎市民の公園管理に対する評価が上昇（公園がよく管理されている：41%→43%） ◎市民協働による管理公園が増加（公園愛護会活動公園割合：88%→89%など） ●公園里親制度を知らない人が多い（公園里親制度を知らない：91%→91%）	○公園施設の老朽化が進み、安全確保の取組み強化が必要 ○市民協働事業の周知が必要																								
広める	意識啓発 みどりを守り育てる心を育む場を提供します	○市民協働による公園管理（公園愛護会、公園里親制度など） ○緑化啓発イベント（緑化ポスター・緑花コンクール公募事業など） ○市民協働植栽（緑化活動推進事業、信濃川やすらぎ堤チューリップ植栽事業など）	◎ 目標達成「緑化活動団体数：270団体→390団体（目標320団体）」 主要因：緑化活動が自治会等の年間行事として定着したこと等 ◎市民協働事業の参加者が増加（やすらぎ堤チューリップ市民協働植付け割合：37%→67%など） ◎市民協働事業参加者の緑化意識が向上（ウェルカムフラワー植栽に参加し緑化意識が向上した：82%など） ●緑化イベントの参加者が減少（春の緑化・秋の緑花イベント入場・参加者：7,790人→5,349人など）	○限られた予算でより多くの参加を促進する仕組みが必要 ○参加者が減少している緑化イベントについて見直しが必要																								